

平成16年度試験研究成果書

区分	普及	題名	品種 7月中旬に開花するりんどう「極々早生1」	
[要約]「極々早生1」は、エゾリンドウ系どうしを交雑することにより育成した、りんどう切花用品種であり、既存の極早生品種「マシリィ」より、5～9日早い7月3～4半旬に開花する青紫色品種である。				
キーワード	品種	りんどう	極々早生	園芸畑作部 花き研究室

1 背景とねらい

りんどうの切花品種は7月下旬咲きから11月上旬咲きまで9品種が育成されているが、露地栽培で7月中旬の東京新盆に対応可能な品種がないため、この時期に開花する品種の開発が望まれていた。

そこで、極早生品種「マシリィ」より早い7月上中旬開花を目標として品種の育成を行った。

2 成果の内容

(1) 来歴

平成11年にエゾリンドウ系選抜系統「ENG」を母系に、エゾリンドウ系選抜系統「AZH20」を父系として交配したF1品種である。

(2) 特性の概要（表1、2）

- ア 開花期：育成地（北上市）では7月3～4半旬、「マシリィ」より5～9日早い。
 イ 花：花色は「マシリィ」と同色、花の大きさは同等である。下段から開花するが、頂花は咲きやすい。
 ウ 花段数：4～5段、「マシリィ」よりやや多い。
 エ 草丈：95～100cm、「マシリィ」よりやや高い。
 オ 茎：茎径は「マシリィ」と同等であるが、曲がりの発生は少なく、茎立数は「マシリィ」より多い。
 カ 葉：「マシリィ」よりやや大きい。
 キ その他：種子繁殖性である。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 促成栽培、半促成栽培への適性は未確認である。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

県下全域（露地普通栽培）

(2) 期待する活用効果

栽培面積及び販売額の増加、普及見込み面積 20ha

5 当該事項に係る試験研究課題

(191) りんどうの品種育成（昭和49～平成20年）

6 参考資料・文献

平成15年度 試験研究成果書「りんどう極々早生育成系統の特性」（研究）
 平成12～15年度 花き試験成績書（一部未定稿）

7 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 「極々早生1」、「マシリィ」の年次別開花期（平成14～16年、農研センター）

品 種	年 次 (年)	株 令	開花期 ¹⁾ (月/日)
極々早生1	平成14年	3年株	7/14
	平成15年	4年株	7/19
	平成16年	3年株	7/14
マシリィ	平成14年	3年株	7/23
	平成15年	4年株	7/24
	平成16年	3年株	7/22

1) 全茎数の50%が頂花まで開花した時期

表2 「極々早生1」の品種特性（平成16年、3年株調査、農研センター）

品 種	開花期 ¹⁾ (月・半旬)	花色 ²⁾	花段数 (段)	草丈 (cm)	節数 (節)	茎立数 (本)	茎径 (mm)
極々早生1	7・3	青紫 (No. 8009)	4.6	96.4	20.3	11.2	4.3
マシリィ	7・5	青紫 (No. 8009)	4.0	92.0	22.1	5.2	4.2

葉の大きさ (cm) ³⁾		花冠の大きさ (cm)		花冠先端	花冠の斑点程度		斑点の色 ²⁾
葉長	葉幅	長さ	直径	の転回	内部	外部	
9.1	3.0	4.7	1.4	反転せず	無	少～中	鮮黄緑 (No. 3105)
8.4	2.5	5.2	1.3	やや外反転	少	少	暗青紫 (No. 8007)

※「マシリィ」は登録時のデータ（3年株）

- 1) 全茎数の50%が頂花まで開花した時期
- 2) 日本園芸植物標準色票による
- 3) 草丈の2/3位置の葉を測定

(参考) 試作地における「極々早生1」開花期
(平成15～16年、石鳥谷町)

品 種	年 次 (年)	株令 (年)	開花期 ¹⁾ (月・日)
極々早生1	平成15年	2	7/15
	平成16年	3	7/17
マシリィ	平成16年		7/25 ²⁾

- 1) 全茎数の50%が頂花まで開花した時期
- 2) 石鳥谷町の出荷ピーク日



図1 「極々早生1」草姿